

Seishin Campus

226

CONVIVIAL LIFE AT MOOMIN'S TABLE
EATING AND SHARING NATURE'S BOUNTY



おもな記事

- ・産学連携
英語文化コミュニケーション学科×ムーミンバレーパーク
教育学科×NTTグループ
人間関係学科×(株)ワコール
- ・スタディツアー
- ・長期・短期留学について
- ・1年次支援について
- ・聖心祭報告その他 TOPICS
- ・キャリア支援について

「ムーミンの食卓とコンヴィヴィアル展」で、
1日インターンに参加した学生

「ムーミンの食卓とコンヴィヴィアル展」 ムーミンバレーパーク

21年度前期の英語文化コミュニケーション学科、大学院英語英文学専攻修士課程の集中講義「翻訳を通じた企業協力」「翻訳理論と実践I-1」(担当:安達まみ教授)では、受講生たちが、埼玉県飯能市のムーミンバレーパークの展示施設コケムスにて7月10日にオープンした新企画展「ムーミンの食卓とコンヴィヴィアル展」を食べることで、共に生きること」の解説の英訳を担当しました。また7月17日・18日には、1日インターンとして、現地で自分たちの訳文について来場者へのプレゼンテーションを行いました。

展示解説文の翻訳

1日限定学生インターン



1日インターンで
来場者に説明する学生



約30名の学生が参加

プロジェクトの進行スケジュール

- プロジェクト始動。
- 3月下旬 現地視察や企画展のコンセプト理解、パーク側へのヒアリング調査などを実施。
- 4月下旬 パーク側から提示された日本語解説案をグループに分かれて翻訳する作業を開始。
- 5月 キャプションの翻訳作業が完了。フィンランドのライセンスによる訳文の校正や依頼に応じた微調整。
- 7月 貴重な展示物とともに学生が翻訳した英訳が公開。

CONVIVAL LIFE
AT MOOMIN'S TABLE

ムーミンの食卓と
コンヴィヴィアル展

2021.7.10 (SAT) ~
2022.AUTUMN

学生のコメント

- ・自分が翻訳したものが形になって展示されていることに感動しました。
- ・言葉の選び方ひとつでニュアンスが大きく変わることが分かり、翻訳の面白さや奥深さを改めて知ることができました。
- ・物語の世界をこわさないように、短く分かり易く伝えることを心がけて翻訳しました。

安達まみ

ADACHI MAMI

英語文化コミュニケーション学科教授



学生たちは物語の世界を深く理解した上で、それぞれ自分と向きあい英語の翻訳文を練りあげ、翻訳をとおして、どのように社会とつながり社会の役に立つかを体験する何よりの機会を得ました。ムーミンバレーパークの方々が生徒を信頼して企画展コンセプトを開示し、英訳と一日インターンを任せてくださったことに感謝します。本企画展を訪れて、学生たちの英訳文をとおして物語の世界を体験しませんか？



益川 弘如

MASUKAWA HIROYUKI

教育学科教授

NTTグループと連携した実践的な課題解決型授業を開講

「仮想空間技術は人の学びをいかに変えるか？」



仮想空間「DOOR」でのNTTによるオンライン講演聴講の様子



仮想空間「DOOR」での学生プレゼンテーションの展示の様子



NTT技術史料館での調査の様子

本授業は、人間の学習の本質について考え深めるシリーズ科目の一つであり、情報通信技術の高度化において、人の学びはいかに変わりうるのか？もしくは変わらないのか？どのような教育が将来展開されうるか？などの問いに対して、学生たちがチームで議論を深めていく内容である。

この度、NTT株式会社、NTT研究所ならびにNTTコミュニケーションズ株式会社の協力を得て、人間の学習に関わる情報通信技術の最先端の情報を提供いただいた。具体的には、NTTグループが目指す「IOWN構想」の紹介、仮想空間環境「DOOR」の体験、現実世界と双子の環境をコンピュータ上で再現する「デジタルツイン」の研究動向の紹介、情報通信技術の歴史から考察するためNTT技術史料館の訪問・バーチャルツアーへの参加支援などである。

以上の情報提供に加え、学生らは人間の学習・認知の特徴、仮想空間技術で人はどう変わるかに関する基礎研究を学び、仮想空間技術の学びのメリット・デメリットについて知見を深めた。これら学習成果を踏まえ、学生たちはチームで仮想空間技術を用いた未来の学びを検討、授業最終日に検討結果をプレゼンテーションし、企業側から数多くの講評をいただいた。



菅原 健介

SUGAWARA KENSUKE

人間関係学科教授

ワコールと連携した実践的な課題解決型授業を開講

「女性の下着への意識は変化したのか？」

本企画は、企業等から与えられた実際の課題に対して、調査データや資料等の解析を通して提言を行う授業です。実社会におけるニーズを的確にとらえ、課題解決策を提案する実践経験の場として実施されました。現在、ワコールでは、顧客が自身に適したインナーを選ぶために、ボタン一つで体型をスキャンし、3D画像として提示するサービスを店舗で実施しています。「この3D計測サービスを別な用途にも活用し、新サービスを展開するとすれば何が適切か」という企業からの問いかけに、大学3年生から4年生までの37名が、9つのチームに分かれ競い合いました。ワコール人間科学研究所と大学をオンラインで結び、職員の方々の助言を得ながら、学生ならではの創造的な企画が提案されました。プレゼン大会を経て、上位2チームにワコールから賞が贈られましたが、学生たちは「実践的な場の中で、学習してきたスキルを活用した経験は刺激的だった」と語っていました。



チームごとのディスカッションの様子



調査データや資料の解析



ワコール担当者
と菅原先生

3D計測サービス
(ワコール広報提供写真)



海外スタディーツアーを毎年、実施して今年で15年目になります。これまで現地の人々や自然、文化と出会い、体験を通して深く学ぶことを目的としてきましたが、新型コロナウイルスの影響で開催はもはや断念せざるを得ないだろう — そんなことを考えていた矢先、ある学生から「自分はスタディーツアーに参加するのを夢見て入学したので、何が何でも開催してほしい」と告げられました。こうした複数の声に鼓舞され、今年度初めて、すべてオンラインにて海外スタディーツアーを2021年8月30日から9月2日までの4日間、実施する運びとなりました。

現地で学生達の学びに伴走して下さったのは一般社団法人アースカンパニーのスタッフの方々です。

この授業は教育学科開講の「発展途上国における教育問題1」の一環として実施され、1年生から大学院生まで8人の学生が参加。オンラインとはいえ、毎日、バリ島の朝日を見ながら瞑想をし、「小道ライブ」で現地の寺院やマーケットを巡り、現地のお菓子づくりにも各自の家庭で挑みました。こうした「体験」を織り交ぜながら、大半の時間は現地でグローバルな問題に取り組む専門家たちのライフストーリーに聞き入り、学生たちは新たな世界観や構想力などと出会い、SDGsが目指す「変容」をくぐり抜けた4日間となりました。

スタディーツアー参加者

- 教育学科4年 岡田梨緒
- 教育学科4年 松岡詩乃
- 教育学科2年 三浦さくら
- 教育学科2年 塚田紗来
- 教育学科2年 小出幸果
- 基礎課程 荒谷菜津美
- 基礎課程 近藤亜紀
- 人間科学専攻博士前期課程 教育研究領域1年 奈良明日香

SDGsのその先を一緒に思い描く研修

様々な人のライフ・ストーリーを通じ 感じる・考える		
Day 1	Day 2	Day 3
次世代につなぐ未来を創る アースカンパニーのストーリー	自然・神々・人々との調和 バリ島の暮らしのストーリー	バリ島に住む 親子、社会起業家、教師のストーリー

ライフストーリーからの学び



アースカンパニーとゲストスピーカーのみなさん



バリからの語りかけ



オンラインでもみんな笑顔



バリからキッチンの中継



4日間の集大成

オンラインでも「体験」

時差(※約1時間ほど日本が早い)があるなかで、現地の様子をコーディネーターの方がリアルタイムで共有してくださったので、雰囲気伝わりましたし、臨場感がありました。

そうなんです。バリの普通の道や街の様子などをZOOMをつなげて案内をしてくださったので、自分が歩いているような感覚で参加できました。

バリ独特の文化や料理も教えていただきました。料理は、バリ在住の方が実際にキッチンから中継してくださって、私たち参加者も自宅のキッチンで準備をして、実際に作って、感想を言い合ったりしました。とても楽しかったです。名前はなんでしたっけ？

ピサンゴレン。バナナを揚げたもので、用意するものも簡単に日本で手に入るものでした。

「幸せ」ってどこにある？

お話を伺った現地の方々には本当に生活を楽しんでいらっしゃって、日々幸せを感じながら暮らしている様子が伝わってきました。日本にいと、利益を優先させる社会、競争社会で、本当の幸せに気づかず生活しているんじゃないかと感じました。

私も、お話をうかがって自分の日常を見つめ直しながら生きていこうと思いました。先進国が途上国に強いている不公平さも実感して、あらたな視点を得ることができたことも大きいです。

参加学生インタビュー

このツアーに参加して得たもの

オンラインで最初は不安もありましたが、実際参加して感じたのは、学ぶ意欲さえあれば、どこでも学べるということでした。

研修の雰囲気がとてもアットホームで温かく、学びやすい空間だったので、問いが自分のなかから湧き出てくるのを感じ、学ぶ楽しさを実感しました。

今後物事を考える上でのベースになるものを教えていただいたと感じています。バリ島で起こっている問題が、日本のなかの地方で起こっている問題と同じ構造だということを研修の後で気づくこともありましたし、物事の見方や学びの姿勢を根本からゆるがされるような感動を得る経験は初めてで、とても貴重な経験でした。

環境問題やSDGsの海外での取り組みについてなど、自分のなかでさらに深めていきたいと思っています。また、現地に行くことはできませんでしたが、今回お話しを伺った方々に会いに行ってみたくです。

オンラインでは、映像や言葉のひとつひとつがフォーカスされて、より深く自分のなかから吸収されていったように思います。

長期留学

長期・短期留学報告

国際交流学科4年

高山 理帆
TAKAYAMA RIHO

リヨン・カトリック大学へ推薦留学
(留学期間：2020年度1年間)



2020年から2021年の留学について

スティーブ・コルベイユ
CORBEIL, Steve
国際センター長



新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大は留学に大きな影響を及ぼしています。感染症拡大初期（2020年）、派遣留学の継続については難しい判断を迫られました。そんな中でも学生の自主性を最優先に考えた結果、12名が現地での留学継続を決断。それぞれが思い描いていた留学とは異なるものとなりましたが、海外でのパンデミックを肌で感じた姿には大きな成長を感じることができました。

2021年度の長期派遣留学生は2名。1名は韓国へ半年間、無事帰国しています。他の1名は台湾留学ですが、入国制限の解除を待って、今はオンラインによる留学を日本で開始しています。

新たな試みとして、2021年の夏期休暇を利用して協定校の提供するオンライン語学プログラムを開講し、37名が参加しました。

国際センターでは学生の安全・安心な海外派遣を維持するために、危機管理体制の見直し、オンラインによる代替手段の提供を通して、コロナ下においても留学を続けるためのサポートをしています。

友人と遊びに行ったり、たくさん旅行をしたり、その中でフランスやヨーロッパの歴史に触れる、そんな私が想像していた留学生活は送れませんでした。しかしコロナ禍での留学に価値がなかったかというそうではなく、別の価値を見つけました。

最初の1ヶ月は普通の授業、途中から全てオンラインに変わりましたが、オンライン授業は日本での経験もなく、不安でしたが、よりわかりやすく発音したり聞き取るときの想像力が鍛えられたのではないかと思います。

コロナウイルス第1波では全国の学校が休校、商業施設の休業、そして外出禁止令と初めての経験ばかりでした。留学中は同じ日本人でも違うタイプの人に出会い、違う国、年齢の人にはいわば強制的に会うことができ、いろいろな人の価値観に触れて、自分がいかに狭い視野で生きてきたのか痛感しました。そして新たな価値を見出すことができたかと確信しています。

是非、みなさんも経験してみてください。

英語文化コミュニケーション学科3年

平尾 羽茄奈
HIRAO WAKANA

韓国カトリック大学へ交換留学
(留学期間：2021年度半年間)



コロナ禍での渡航となり、期待と不安、緊張と葛藤との連続でした。一人空港に降り立ち、異国での2週間の自己隔離は精神的にもとても辛かったのですが、心持ち次第でどうにでもできることに気づき、その後の留学生活へ積極的に取り組むことにつながったと思います。

例えば、他大学学生と交流し、グループワークを行う際、普段より出会う方法や機会が限られていることで、いつも以上に積極的にコミュニケーションをとり、行動する原動力となりました。自分になかったものを得たことを実感し、自信にもつながったように思います。留学生活を通して得たものは、まず取り組んでみる、飛び込んでみるという姿勢で向き合えば必ずできるという「挑戦力と実践力」だと感じています。

留学後の就職支援

留学と就職活動の両立については、不安を感じる学生も少なくありません。そのため、留学中や留学後の就職活動について、キャリアカウンセラーのカウンセリングや、留学を経験した先輩の話聞くセミナー・講演会を行い、安心して留学できる環境を整えています。

短期留学(2021年度はオンラインで実施)



教育学科初等教育学専攻4年
三島 昌子
MISHIMA MASAKO
ブリティッシュ・コロンビア大学

毎授業、楽しみながら参加できました。多くの参加者が向上心を持って取り組んでいたため、話すことに重点をおくことができ、参加しやすい空気感がありました。先生からは、間違えを恐れずに勇気を持って話すように何度も言って頂き、自分の考えを言語化することの重要性を改めて感じました。また、週によって学ぶトピックが決まっていたこともあり、ゲストを招いて何度も話し合いを重ねることで、会話力はもちろんのこと、社会問題についても考えを深めることができました。



国際交流学科グローバル社会コース2年
小屋 尚美
KOYA NAOMI
輔仁大学

教科書は台湾や中国の日常、文化を基にしており、そこから台湾の日常・文化について学ぶことが多かったです。観光に行っただけではつかめないような、現地の文化や考え方に触れることができ、大きなカルチャーショックを受けました。例を上げれば、現地の大学生の生活や日本とは違う賃貸の条件、建築物の違い、お祭りや行事とそれを行う意味など、些細なことですが現地に行けないながらも台湾について深く知ることができました。

コロナ禍における1年次支援の取り組み

1年次センターは、大学生活のスタートとなる1年次生に必要な情報を提供し、学科・専攻が決まるまでの1年間、学生研究室の代わりとなるほか、ジェネラルレクチャーの企画・実施や、1年次ゼミである基礎課程演習のサポートも行なっています。



濱口 壽子
HAMAGUCHI TOSHIKO
1年次センター長

本年度は、感染症対策のため二部制で実施した入学式に始まり、大学で1年次生を迎えることができました。しかしその後は対面で始まった授業もオンラインに変更せざるを得ない状況が続き、友達ができない、周りの学生の習熟度がわからない中でモチベーションを維持することが難しいなど、様々な不安を耳にしました。

1年次センターは、感染症対策を徹底し、オンライン授業の受講や履修や学生生活の相談窓口として開室する一方で、emailでの対応や下記に示すバーチャル1年次センターを通して、どこからでも相談や情報収集ができる1年次生のための研究室として学生サポートを行っています。後期には参加型イベントを通して、学生同士が交流できる場や学生の声を聞く場を増やしました。短い会話でも不安解消に繋がります。今後も感染状況を見つつ、学生同士や教職員とのふれあいを通して、大学生活の土台作りができるようサポートしていきたいと思っています。

01 オンラインでのジェネラルレクチャー(※)

毎週水曜日4限の時間にZoomウェビナーを使用して、前期は学内の施設紹介や、上級生や卒業生による留学、ボランティア活動を紹介します。オンライン授業期間開始にあたり、「大学生の勉強法入門(オンライン授業対応版)」の講義を実施。

後期は卒業生を含む各界で活躍する方々による講演をリアルタイムで配信。Q&Aやチャット機能を使用することにより、1年次生と講演者の質疑応答も可能に。

※ジェネラルレクチャー：各界で活躍する方々によって、さまざまなテーマの講演が行われます。1年次生全員が必須で受講。

02 バーチャル1年次センター(全1年次生登録)による情報提供

ジェネラルレクチャーや1年次生が参加できる学内イベント、学科・専攻に関する情報をGoogle Classroomを利用したバーチャル1年次センター上で提供。

03 窓口およびメールによる相談対応

窓口だけではなくメールによる相談にも対応することにより、学生の学修形態を問わず、すべての1年次生からの相談に応じる体制を整備。

04 1年次生オンライン交流会

課外活動団体所属の3年次生2名の司会のもと、「広尾のあんなこと、こんなこと」をテーマに、1年次生同士の交友関係を広げるイベントを実施。

05 学科専攻 学生による相談会

各学科の上級生が主体となり、学修内容だけでなく生活全般にもわたる1年次生の疑問に答え、交流する相談会を主催。

06 季節のイベント

七夕、ハロウィン、クリスマスなど、季節ごとに1年次生が大学に来ることを楽しむことができるイベントを実施。

07 1年次センター利用ガイドラインの作成とセンター整備

感染症対策を徹底した上で、窓口への相談や、学内でオンライン授業を受講できる場所としてセンターを整備し、利用ガイドラインを作成。

グローバル教育環境整備募金 ご寄付・ご支援のお礼

ご寄付の状況

総額：305,877,582円
(2021年10月31日現在)

■ 10,000,000円
聖心女子大学
同窓会宮代会

■ 50,000円
五味 康昌

■ 30,000円
松本 澄子

■ 22,000円
松本 澄子

■ 21,843円
弥生会
(史学科東洋史OG会)

■ 10,000円
竜田 信子

■ ご芳名のみ

高祖 敏明	長澤 育子	藤江 真子	舞石 太
大谷 範子	村田 素子	瀬木 信子	城戸 顯子
吉澤 利之	夏目 洋一	富田 和美	広尾商店街振興組合
土屋 里香	道正 伸久	矢澤 雄太	
都築 玲子	長原 美香	田久保 弘美	■ 匿名 37件

寄付者ご芳名(2021年2月~10月)敬称略



グローバル教育環境整備募金につきまして、ご寄付をいただいた方々のご芳名を掲載し、深く感謝申し上げます。なお、ご芳名の掲載に同意いただいた方のみとなります。

第57回聖心祭報告

聖心祭実行委員長 浦山優子

10月16日(土)・17日(日)昨年に引き続きオンラインという形で第57回聖心祭を開催し、無事盛況のうちに終了致しました。今回のテーマを『繋』として掲げ、オンラインラッフル抽選会やオンライントークショーをはじめ、オンライン上で聖心祭にお越しただいたお客様に離れた場所からでも皆一人一人が繋がれる、「繋」(きずな)が感じられる聖心祭を作りあげることができたことを誇りに思います。また、チケットやコラボグッズを多くのお客様にお買い求めいただき御礼申し上げます。収益金の一部はチャリティーに充てさせていただきます。最後に、ご協賛企業様、支えてくださった学内関係者の皆様、オンライン聖心祭にお越しくださったお客様に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



人間関係学科職業社会学ゼミが地元商店街のお茶専門店とスイーツ店を繋ぐ商品をプロデュース

人間関係学科大槻ゼミでは、「コロナ禍において、人々をつなぐ」をテーマにした「give heartプロジェクト」を展開。学生が昨年に続き、椿宗善広尾店とのコラボ企画としてお茶の商品パッケージデザインを手掛けました。さらに、椿宗善広尾店とお菓子屋さんpatisserieMERCIとのコラボ商品をプロデュース。商品PR動画の作成なども学生らが行いゼミ独自のオンラインショップで販売を開始しています(お茶は「椿宗善広尾店」でも販売中、年内中の販売を予定)。

販売サイト <https://otsukizemi.thebase.in/>



大槻 奈巳教授 (人間関係学科) のコメント

人間関係学科職業社会学ゼミでは、広尾商店街周辺のお店同士の商品を聖心生が繋ぎ、広尾という地域を核に、空間を超えて人々に温かい気持ちを届けていきたいと考えています。11月には、4号館「La Mensa jasmine」にて、ゼミ生が企画した「La Mensa jasmine」と「椿宗善広尾店」とのコラボメニューを発売する予定です。収益は、こども食堂等に寄付を考えています。ぜひゼミ生たちがプロデュースしたお茶やお菓子を召し上がっていただき、温かい気持ちになっていただければと思います。



学生団体SHRETが近隣小学校で難民について講演



本学学生団体SHRET (Sacred Heart Refugee Education Trust) は、難民問題について学び、考え、学生の視点でアクションを起こすことを目標に、学内外で啓発活動に取り組んでいます。港区立の小学校で、難民についてのクイズや、難民となった少女の物語動画の視聴、難民となって祖国を離れることを疑似体験するワークショップなどを通して、日本にいる自分たちとは異なる境遇に置かれた難民のことを理解できるよう、講演を行いました。

2021年度 第1回 聖心女子大学協力会役員会が開催

2021年10月16日13時30分から本学ブルーパラーで2021年度第1回聖心女子大学協力会役員会が開催されました。高祖名誉会長の挨拶に続き、諸戸会長の進行の下、2021年度会長・副会長の選出が審議され、高祖名誉会長からの推薦により、現会長の重任と新副会長として石橋達史様・手塚加津子様の就任が一同に諮られ承認されました。推薦に当たり、今回から副会長を2名とする旨の説明がありました。重任された会長および新任副会長から就任の挨拶が述べられた後、前副会長の木村雅彦様より退任の挨拶がありました。続いて菅原・植田・安達各副学長および長野図書館長から大学の近況が報告されました。

総務課

聖心女子大学 創立75周年にむけて

聖心女子大学は、1948年、日本で最初の新制女子大学の一つとして創立され、2023年には75周年を迎えます。そこで現在、創立75周年記念事業の企画を進めております。具体的な内容は今後、逐次お知らせしていく予定ですが、75周年を50周年から100周年への中間点と位置づけ、100周年に向けて、聖心女子大学がさらなる発展を遂げていく契機にしたいと考えております。また、この事業には在學生にも積極的に参加してもらい、記念事業を通じて学生・教職員のほか聖心コミュニティとしての一体感を一層強めていく所存です。卒業生、保護者の皆様方ははじめ、関係者の皆様には、なにとぞ鞭撻、ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

創立75周年記念事業構想WG座長 佐々木恵介

カーボンニュートラル都市ガス及び100%再生可能エネルギー電力の導入

聖心女子大学では、日本の女子大学としていち早く、「気候非常事態宣言」を発表し、脱炭素社会の実現に向け、照明のLED化、高効率空調機器への更新などにより消費電力の削減を行っており、エコキャンパス推進計画においては、2025年度までに2019年比で650t、32%のCO2削減目標を掲げています。このたび、本学で使用する都市ガス全量を東京ガス株式会社が提供するカーボンニュートラル都市ガスを導入し、8月3日から使用を開始しました。

また、4号館で消費する電力について、東京電力エナジーパートナー株式会社が提供する100%再生可能エネルギー電力(非FIT非化石証書付電力)を導入し、9月16日から使用を開始しています。

これに伴うCO2削減量は、カーボンニュートラル都市ガスにおいて289t、100%再生可能エネルギー電力において184tとなり、合わせて2019年比で473t、23.4%のCO2削減を達成します。



4号館/聖心グローバルプラザ



BE*hiveでの企画展示「いま、『女性』はどう生きるか」は、女性の生き方に深くかかわる4つのテーマを取り上げますが、その1つ「結婚」をテーマに、現代の国際比較や歴史的視座から「児童婚」に焦点を当てた第II期が2021年10月11日から始まりました(2022年4月28日(木)まで)。

「児童婚」という問題は、貧困や不十分な教育、法制度や社会規範など、さまざまな社会的背景から生み出されています。今の日本の私たちにとっては遠い国の話のように思えますが、本当にそう言えるのでしょうか。

この展示を通じて、私たちがこれまで常識と思っていたことを見直し、よりよい社会の実現のために、一人ひとりができることを問い直す機会となることを目指しています。

<ウェブ展示も公開中 https://kyosei-u-sacred-heart.ac.jp/exhibition/2021_women_2/>
なお、「緒方貞子さんと聖心の教育」展示も、BE*hiveで同時に開催中です。



就職活動体験記

学科や留学で学んだ「多様性」をキーワードに就職活動

1年間イギリスに留学をしていたときに、ユダヤ教徒の友人ができました。日本のなかには「宗教」を意識して生活することがあまりありません。友人を通じて、文化の違いだけでなく、信仰によっても考え方が大きく違ってくことを実感しました。また、鈴木弘貴教授のメディア論ゼミでは、同じニュースであっても国によって考え方、とらえ方が違うことを知り、お互いの文化や考え方を認め合う大切さを改めて感じ、就職にあたっては日本国内にとどまらず世界を視野に検討しました。結果、あらゆる多様性に対応しながら自らの意志で積極的に働くことのできると感じた企業に内定をいただきました。



国際交流学科 原 結衣子
HARA YUIKO

内定先：日本ヒューレット・パッカード合同会社

企業に選ばれるのではなく、自分が選ぶ

就職活動では、どんなに熱意をもっていても報われないことがあります。私は、キャリアセンターでキャリアカフェ(先輩との座談会)に参加したり、カウンセラーの方と相談するなど出来るだけ一人で抱えこまず、「自分も選ぶ側の立場」なのだという気持ちを持って、モチベーションを保つように心がけました。



国際交流学科 松本 有花
MATSUMOTO YUUKA
内定先：株式会社日本政策投資銀行

大学で学び経験したすべてが進路選択の原点

聖心では、先生方と学生の距離が近く、学生の個性や特徴を理解してくださっているので、相談するの的確なアドバイスをくださいます。また国際交流学科で「答えのないものに向き合うことの大切さ」や「偏見をのぞき、自分と違う意見に耳を傾ける大切さ」を学んでできたことが、将来へのビジョンに繋がったように思います。特に聖心のHultPrize(※)にプレゼンターとして参加したことで、いまある社会のその先を見据え、新たな価値観を生み出すことに注力しているところで働きたいと考えるようになり、最終的に政府系金融機関に絞りました。十数回の説明会に参加して面接官の方々に顔を覚えていただけたことも結果につながったように思います。

生きることは 学び 考え続けること

座右の銘であるソクラテスの「無知の知」を胸に、常に学び続ける姿勢は貫いていきたいです。一つの分野に精通することよりも、幅広い経験と奥深い知見、そして全体を俯瞰する力を備えた人間になりたいと考えています。

※HultPrizeとは、ビジネスを用いてグローバルな社会課題を解決する、世界最大規模のプラットフォーム。毎年各国から200万人以上の学生が参加。日本でも各大学で開催されている。

キャリアセンターの支援

本学専用の進路支援システム「Torch」を通じて、イベントや支援に関する情報等を発信しています。



キャリアカウンセラーによる
個別サポート

様々な経歴を持つキャリアカウンセラーが多数在籍。進路の相談からエントリーシート添削、模擬面接など就職活動における実践的な対策まで気楽に相談できます。



OGとの連携・就職体験記

卒業生キャリアサポーターの紹介、卒業生を招聘したパネルディスカッションを開催。また、面接・選考内容や後輩へのアドバイスなどが記された就職活動体験記は、少人数教育の聖心ならではの支援です。



オンライン就職活動対策講座

筆記試験、履歴書、面接の対策講座、企業採用担当者を招いた業界研究講座、渋谷4大学連携協定による合同グループディスカッション講座他、多数開催しています。

就職活動全体スケジュール(参考)(2021年11月現在)
※すべての方に当てはまるとは限りません。

